

ISO/IEC/JIS 事務局便り 2010年10月

ISO/TC 61/SC 2(機械的性質)分野の最近の動向

ISO/TC61/SC2 は、プラスチックの機械的性質の試験方法に関する規格の制定・改正を担当し、現在、68 の規格を発行し、19 のプロジェクトを開発中である。SC2 下で活動中の作業部会を表.1 に示すが、WG8 は、SC9 国内委員会が担当している。

表.1 TC61/SC2 の WG

WG	幹事国	名称
1	ドイツ	静的力学特性
2	マレーシア	硬度及び表面特性
3	アメリカ	耐衝撃性
4	アメリカ	動的力学特性
5	イギリス	温度依存性
7	韓国	疲労及び破壊靱性
8	イギリス	データの標記方法

* SC2 の幹事国 : スペイン

SC2 国内委員会 (主査 : 中山氏) は、今年も、9 月にタイのバンコクで開催される第 59 回 TC61 国際会議に代表団を派遣する。本稿では、TC61/SC2 の最近の動向と今度の TC61 国際会議の主要な課題について WG 別に概要を報告する。

1. 静的力学特性 (WG 1)

ISO/DIS 527-1 (引張特性の試験方法—第 1 部 : 通則)、ISO/DIS 527-2 (第 2 部 : 型成形、押出成形及び注型プラスチックの試験条件) : 昨年 の TC61 ローマ会議にて日本提案である①従来の標線間距離 50mm も残す ②従来の呼びひずみ (チャック間の伸びをチャック間距離で除したもの) も残す が認められた。これらを踏まえた DIS 527-1 が作成され回付された。ところが、日本の提案は NOTE に記載されており、規定になっていない。そこで、日本提案を本文中に記載すべきとのコメントを付け反対投票を行った。

DIS 527-2 についてはコメント付き賛成とした。今度のバンコク会議では DIS 527-1, 2 についてコメントを踏まえ、十分に議論される予定である。さらに、標線間距離 75mm と 50mm との引張特性値の差異について再度実験を行い明確となったので、結果を発表する予定である。

ISO/FDIS 178 (曲げ特性の求め方) : 先の DIS 178 での反対意見を考慮して、試験速度を変えない従来の方法を残すこととなり、昨年ローマ会議にて FDIS に進めることが決定された。現時点では、FDIS は回付されていないが、バンコク会議までに回付されれば、そこで議論されることとなる。

2. 硬度及び表面特性 (WG 2)

昨年ローマ会議では、日本よりプラスチック部品の硬さ測定方法 (マイクロインデンテーション法) について新規提案を行った。現在、NWIP 提出を目的として、国内委員会にて検討を行っている。今度のバンコク会議でもこれについて議論される。

ISO 9352 (摩耗輪による摩耗抵抗の求め方) 改正 : ローマ会議では本規格の改正が決定され、日本を含む 5 か国がエキスパートとしてサポートすることとなった。現在、改正案として CD が回付されている。

Scratch に関する新規提案 : スクラッチ可視抵抗及びスクラッチ誘起表面損傷の評価に関わる 2 件の新規提案が韓国からなされている。バンコク会議にて審議される予定である。

3. 耐衝撃性 (WG 3)

ISO/FDIS 179-1 (シャルピー衝撃特性の求め方—第 1 部 : 非計装化衝撃試験) : ローマ会議にて DIS 投票で寄せられた多くのコメントについて議論した。その後、FDIS 投票が行われ、反対なく承認された。

4. 動的機械特性 (WG 4)

DIS 6721-11 (動的機械特性の試験方法 第 11 部 : ガラス転移温度) :

DIS 投票の結果、FDIS に進めることが決まったが、この時寄せられた多数のコメントについて、バンコク会議にて議論される。

ISO/FDIS 6721-12 (動的機械特性の試験方法—第 12 部 : 圧縮振動法) : 日本が PL のプロジェクトで、FDIS 投票の結果承認され、IS 発行となった。

5. 温度依存特性 (WG 5)

ISO 75-2 (荷重たわみ温度の求め方) および ISO 306 (ビカット軟化温度の測定) 改正 : 現行のオイルバス法に対して、高温範囲に延長できる流動床お

よび空気浴による加熱法を加える文書の改定作業が、ローマ会議で了承された。ISO 306 の改正案は日本が担当し、現在作成中である。精度データとして、ビカ
ット軟化温度についてオイルバスと流動床の値を検討したところ、良好な相関
を示すことが確認された。

6. 疲労及び破壊靱性(WG7)

ISO/CD 28660 (J-R 曲線の求め方) : 延性材料の破壊靱性を J 値で評価
する方法を提案した本案件の CD 投票で、17 か国中、4 か国(フランス、ドイツ、
イタリア、スイス)が反対であり、コメントも多く提出され、バンコク会議に
て審議される。

ISO/CD 29221, (モード I き裂伝播停止破壊じん性 KIA の求め方) : CD 投票
が行われて、16 か国中、1 か国(ドイツ)が反対であった。コンセンサスを得
るため、バンコク会議にて討議される。

以上